

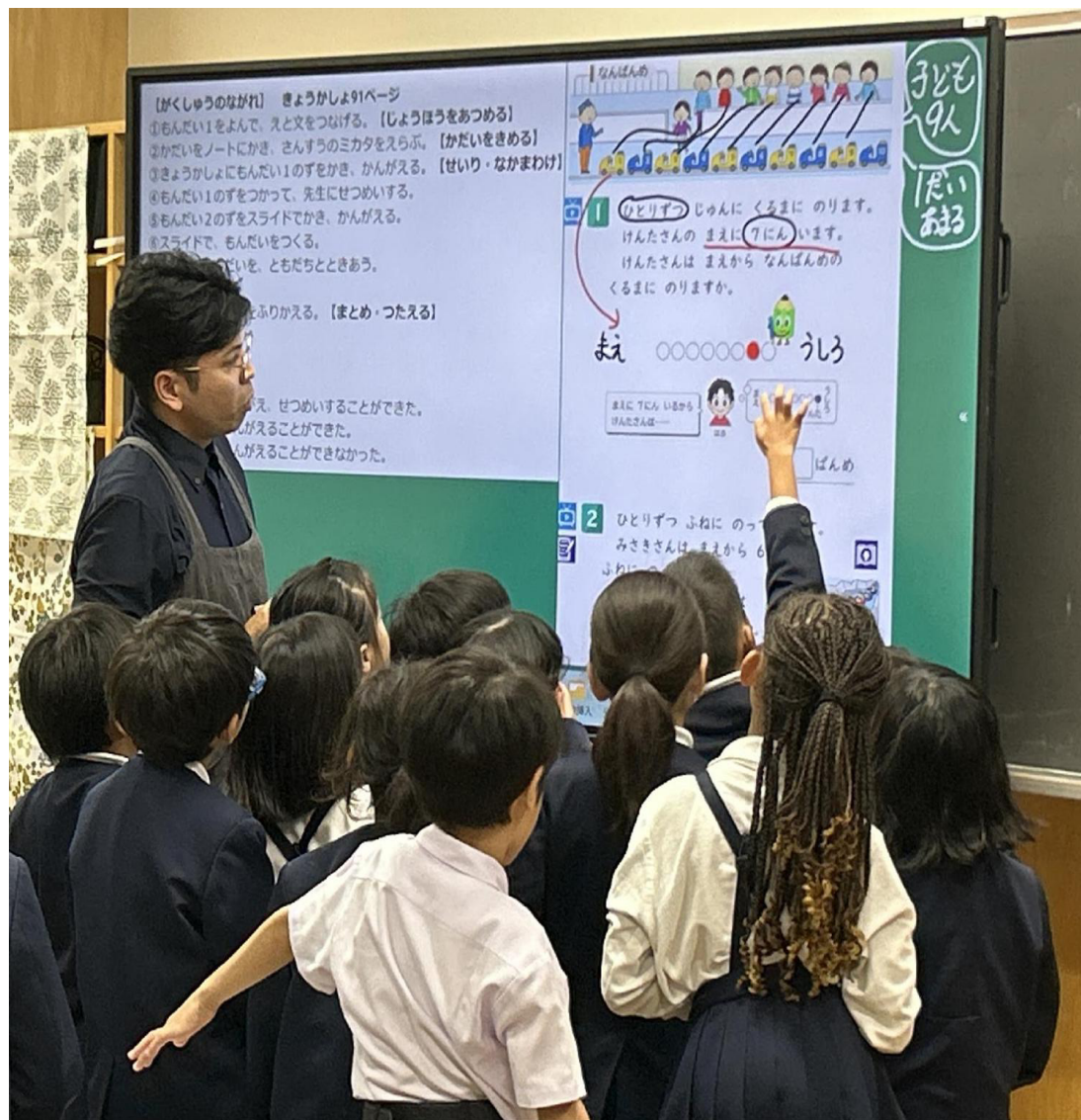
【GIGA×指導の工夫・改善】 困ったら前に集まって考える

＜考察＞

今回は問題解決で困っている児童への指導の工夫・改善について述べていく。

右の写真は、1年生の算数「ものとひとつのかず」の授業で、問題解決に困った児童が前に集まり、意見交流をしている場面である。児童に問題解決を委ねて机間指導を行うと、教科書から情報収集をしているが、解決できずに困っている児童が見られた。そこで「もし困っていたら、一緒に考えよう」と呼びかけた。そこで意識したことは、教師が答えをすぐに教えるのではなく、集まった児童の悩みや気づきをつなぐことである。

児童に問題解決を委ねた以上は、理解度を見取る必要がある。今後も放任にならないように、丁寧に児童の学びを見取っていききたい。



【GIGA×指導の工夫・改善】 全体確認場面と個に対する指導場面を使い分ける

＜考察＞

今回は、児童の特性に応じた指導の工夫・改善について述べる。

右の写真は、情緒特別支援学級の自立活動「かいものごっこ」の授業で、全体確認場面と聴覚過敏な児童がヘッドホンを使って問題解決に取り組む姿である。

全体確認場面では、教師は児童の質問に答えて、理解度をそろえていく。異学年が同じ教室にいるからこそ、言葉の意味や困っている点を丁寧に共有していく。また周りの声に過敏に反応してしまう児童の特性を踏まえて、ヘッドホンが使える環境も整えている。加えて、児童の目線に合わせた丁寧な個別指導も必要不可欠である。

今後も児童の特性に応じて、全体で確認する場面と、個に対する指導場面を教師が意識して使い分けていきたい。

